

# イギリスで報じられた設立期の神戸ゴルフ倶楽部に関する活動について —1903年(明治36年)から1913年(大正2年)の *Golf Illustrated* の記事を対象として—

柳樂直人

## 1. 序論

神戸ゴルフ倶楽部とは、1903年にイギリス人 A.H. グルムらによって設立された日本最古のゴルフ場であり、明治期日本のスポーツクラブの先駆けとして、またゴルフという外来スポーツ受容の最初の窓口として、近代日本スポーツ史、兵庫県スポーツ史、ゴルフ史に位置づけられてきた。神戸ゴルフ倶楽部の活動を示す同時代史料として、日本国内で発行された新聞、雑誌記事だけでなく、イギリスで発行された新聞、雑誌記事も併せて検討されてきた。中でも、イギリスのロンドンで出版されていたゴルフ専門誌、*Golf Illustrated*(1899～1989) に掲載された以下 3 点の記事は、1904 年までの神戸ゴルフ倶楽部設立期の活動を知る重要な手がかりとして一部が翻訳されている。

①E.A.Spungin, 'The Game in the Far East. An Interesting Account of Golf in Japan', *Golf Illustrated*, July 10, 1903. ②H. T. Thomas, 'Golf in Japan. The First Golf Club', *Golf Illustrated*, July 30, 1903. ③Fan Kwai, 'Golf in the Far East. The Kobe Golf Club', *Golf Illustrated*, December 23, 1904

しかし、*Golf Illustrated*(1899～1989)に関してこれら 3 つの記事以外で神戸ゴルフ倶楽部に関する記事は検討がされていない。そこで、本研究では 1903 年から 1913 年の 11 年間を対象年として、イギリスのゴルフ専門誌 *Golf Illustrated* に掲載された神戸ゴルフ倶楽部の活動に関する記事を調査可能な範囲で明らかにし、そのスポーツ史的意味について考察することを目的とした。

## 2. 本論

### 第一章 *Golf Illustrated* に掲載された神戸ゴルフ倶楽部の記事一覧

1903 年～1913 年の *Golf Illustrated* の記事を調べたところ、神戸ゴルフ倶楽部の活動に関して 8 つの記事を発見した。それぞれの記事の掲載日と記載内容、掲載写真枚数を以下の表に示す。

記事掲載年月	記事内容	写真枚数
1904年10月7日	神戸ゴルフ倶楽部のコース説明	5
1905年1月21日	神戸ゴルフ倶楽部のメンバーH.E.ドントの紹介	0
1905年4月21日	日露戦争時の神戸ゴルフ倶楽部の活動	0
1905年8月18日	H.E.ドントのスコア更新	0
1905年11月17日	神戸ゴルフ倶楽部で開かれたキャプテン杯	0
1906年12月28日	世界中の険しいコース	1
1909年1月29日	神戸ゴルフ倶楽部と横浜ゴルフ倶楽部のインターポートマッチ	7
1913年2月7日	神戸ゴルフ倶楽部のコース説明	2

### 第二章 *Golf Illustrated* に掲載された神戸ゴルフ倶楽部の記事の特徴

*Golf Illustrated* に掲載された神戸ゴルフ倶楽部の 8 つの記事の内容は大きく 6 つに分類できる。

#### ①神戸ゴルフ倶楽部のコースの説明について

4 つの記事で神戸ゴルフ倶楽部のコースの説明が報じられている。記事では神戸ゴルフ倶楽部のコースに対して、「素晴らしい自然のコースを備えており、日本のゴルフ

の先駆者である H.E.ドント育成の元、最も恵まれた状態で存在している。」「コースの状態が完璧である」と高い評価をしている。

② 神戸ゴルフ倶楽部設立期の中心人物である H.E.ドントについて

5つの記事で神戸ゴルフ倶楽部のメンバーであった H.E.ドントに関する記事が報じられている。*Golf Illustrated* の記事では H.E.ドントを「ドントの熱意のおかげで神戸ゴルフ倶楽部は東で今最も盛況している組織の1つである。」「今シーズンの最高のスクラッチラウンド 70 は、有名なドントさんによって行われた。起伏に富んだコースの性質を考慮すると、これは並大抵の成果ではない。」と報じており、ドントを倶楽部の発展への貢献とゴルフの腕前の2つの側面から評価していたことがわかる。

③ 神戸ゴルフ倶楽部のメンバーが参加した大会について

*Golf Illustrated* の記事では、1905年10月1日に行われたキャプテン杯と1908年11月13日に行われた神戸ゴルフクラブと横浜ゴルフクラブのインターポートマッチに関する内容が報じられている。大会当日の天候から、優勝選手・準優勝選手のスコア、それぞれの選手の経験にまで述べられている非常に詳細な記事である。

④ 日露戦争時の神戸ゴルフ倶楽部の活動について

*Golf Illustrated* の記事では、日露戦争時の神戸ゴルフ倶楽部の活動について言及している。記事では、キャディが地面に戦艦の形を焼き付けておりそれはロシアの軍艦を表していること。そして、ボールがその軍艦に当たるとキャディは大喜びするという内容が報じられている。これは神戸ゴルフ倶楽部の先行研究では明らかになっていない情報である。

⑤ 神戸ゴルフ倶楽部の記事から読み取れる

日本のゴルフの広がりについて

*Golf Illustrated* では日本のゴルフ事情について「ドントの熱意のおかげで神戸ゴルフ倶楽部は東で今最も盛況している組織の1つである」「ゴルフが日本でブームになっている。」「ゴルフは日本にしっかりと根付き、神戸と横浜の2つの主要クラブは驚くほど繁栄している。」と報じている。これらの記述から、当時の *Golf Illustrated* の記者はゴルフは日本にしっかりと根付いていると考えていたことがわかる。

⑥ 写真から読み取れる神戸ゴルフ倶楽部の活動について

*Golf Illustrated* は神戸ゴルフ倶楽部の活動の様子を写真を多用して紹介しており、それぞれの写真は当時の活動の様子を理解するのを助けてくれる。写真を見ることで当時の神戸ゴルフ倶楽部のコースの様子や、プレイヤーの服装、日本人キャディの存在、インターポートマッチの様子などが見てとれる。

第三章 新たに発見した史料が果たす役割

新たに発見した史料は、以下の4つの役割を果たす史料である。

① 当時の *Golf Illustrated* が神戸ゴルフ倶楽部の活動に強い関心を持っていた事を示す史料  
② 当時の *Golf Illustrated* の神戸ゴルフ倶楽部に対するイメージを示す史料  
③ 神戸ゴルフ倶楽部に関する新しい情報を示す史料  
④ 神戸ゴルフ倶楽部の活動を写真で表す史料

### 3. 結論

本研究の対象である、1903～1913年に *Golf Illustrated* に掲載された神戸ゴルフ倶楽部の関連記事は、当時のイギリス雑誌が神戸ゴルフ倶楽部に対して抱いていた関心の強さやイメージを写真と共に示しており、イギリスのゴルフ雑誌から見た神戸ゴルフ倶楽部の活動を検討する際に非常に有益な史料である。（指導教員：秋元 忍）